

■ワークスしんあい(令和2年度事業報告)

令和2年度経営方針

利用者の高齢化、重度化に伴い、作業体制の検討が必要になってきている。情報共有を図り、環境整備や作業提供の工夫等を行うことで現状を維持していけるよう取り組んでいく。

また、余暇活動についても休日開所やイベント等へ多くの利用者が参加できるよう提案内容に創意工夫する。

作業、余暇活動共に、利用者・職員全体で楽しみ、活動していけるよう計画的に実施していく。

(1) **就労継続支援B型事業** 作業班ごとに作業の充実を図り、工賃向上を目指す。利用者の適性に応じて作業を選択できるよう配慮し、働く場としていきいき活動できる場を作っていく。

(2) **生活介護事業** 日中活動として各種の生産活動を設定し、働くことの基本姿勢を身につけられるよう支援していく。また、利用者の個々に抱える生活上、支援上の課題について、関係機関と連携を図りながら支援の検討、実践に取り組んでいく。

令和2年度取り組み

1 利用者支援

◆具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
◆ 個別支援計画に沿った支援 ① アセスメントを元に個別支援計画を作成し、各々に応じた支援を行う。 ② 毎月プラン実践結果や利用計画書(再作成、モニタリング)を確認し、随時プランの変更を行う。 ③ 強度行動障がいの方に対し、環境を整備し過ごしやすい作業環境、支援体制を設定していく。 ④ 記録システムの見直しを検討する。	① 個々の計画を把握し、日常生活支援に反映させた。 ② 相談事業所と協力しながら、定期的なモニタリングを行った。 ③ 日々の取り組みの中に対象者への支援を意識して促すと共に、絵カードの作成・使用、音や周囲状況に過敏性がある方への配慮として、パーテーション等を利用して取り組んだ。 ④ 記録システムについては法人内での統一が望ましいことから、先行導入した GH の状況を踏まえて見直しを行う予定である。
◆ 安定した作業を提供し、売り上げ向上を目指す ① 現状の作業を見直し、作業の安定、工賃アップを目指す。 ② 利用者の状況を踏まえたグループ分けを行い、個々に合った日課の提供ができるよう検討する。 ③ ひととき、カーロの売上向上を目指し、その戦略を作成、計画し実施する。	① 授産製品のマスクの販売が行えた。内職作業を継続して行う事ができた。 ② 作業の取り組み状況や体調面に考慮し、利用者に向けた作業提供を行った。 ③ ひとときでは時短営業を継続。季節や行事メニューを意識した。カーロは 500 円のお得セットを販売した。対面ではないが、みどりのまちや特別支援学校での販売を再開することができた。クリスマスケーキは目標の 100 台を上回る販売ができた。

<p>◆ お客様に信頼される店作り</p> <p>① 清掃を徹底し、衛生的な店作りを行う。</p> <p>② 商品管理を行い、安全・安心な商品の提供を行う。</p> <p>③ 老朽化した備品の確認を行い、営業に支障がでないよう見直しを行う。</p> <p>④ ユニフォームを一新し、明るく親しみやすい店を作る。</p>	<p>① 新型コロナ感染防止として、通常の清掃に加えて、消毒も適宜行う事ができた。</p> <p>② 毎月の棚卸を行い、商品を安全に提供することができた。</p> <p>③ ひとときで一部、食器類の入れ替えを行い、カーポートではシーラーの交換を行った。</p> <p>④ 年度当初にユニフォームの一新をした。</p>
<p>◆ 魅力ある活動の充実</p> <p>① 利用者自治会を通じて、利用者の声を聞き実現する。</p> <p>② 生活介護利用者への定期的な運動の機会を設ける。(散歩、プール)</p> <p>③ 利用者の状況を踏まえた上で休日の開所日を設定、小集団での外出の機会を提供する。</p>	<p>① 新型コロナ感染防止対策を実施し、自治会は年度末にのみ開催ができた。普段の支援の中で利用者の声を聴くよう配慮した。</p> <p>② 定期的に散歩(ドライブ)の機会を設けた。プールはコロナ禍で行えなかった。</p> <p>③ 感染防止対策に努め、できる限り開所する日を確保した。コロナ禍でもできる取り組みのアイデアを出し、利用者の楽しめる機会を設けることができた。</p>

2 人材育成

<p>◆具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段</p>	<p>実績</p>
<p>◆ 研修への参加</p> <p>キャリアパスに応じた研修参加をすることでモチベーションや、資質の向上に繋げていく。</p>	<p>コロナ禍のため、キャリアパス研修は見合わせた。事業所内での虐待に関する研修は、感染拡大防止に配慮して開催できた。</p>
<p>◆ 人材の育成と役割の明確化</p> <p>① 職員の役割を明確にし、個々の仕事に対する意識を高める。</p> <p>② 主任、チーフを中心に現場のマナー化を改善するため、日課や作業体制を工夫する。</p>	<p>① 各取り組みについては随時報告を求め、周囲の職員と情報の共有をするようにした。</p> <p>② 作業については非常勤職員を中心に取り組み、正規職員は利用者支援を中心に作業の概要を把握するように努めた。生活介護では散歩を日常的に行った。コロナ禍でありながら、利用者が楽しめるアイデアを出しながら開所日を設定した。</p>

3 施設設備管理

◆具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
<p>◆ 業務の効率化</p> <p>① 時間の有効活用を行い無駄のない業務遂行を図る。</p> <p>② 勤務体制や休日開所の日程を調整し、事務処理ができる時間を作る。</p> <p>③ 職員の休憩時間を確保し、より働きやすい環境を整えることで、リフレッシュして仕事に向かえるよう取り組む。</p>	<p>① 職員間で事務処理に取り組む時間を設定し、勤務時間後にPCを使用することは無くなった。</p> <p>② 休日開所後だけでなく、事務処理の出勤日を設定し、平日の負担を軽減した。</p> <p>③ 休憩場所を用意し、支援から一度離れる時間を設定することで、切り替えて仕事に取り組むことができた。</p>
<p>◆ 給食</p> <p>① 配膳環境を整え、食事の適時適温提供を行う。</p> <p>② 食品を扱う場所では、清掃や衛生チェックを徹底し、衛生的な環境を保持する。</p>	<p>① 夏は冷蔵庫で食品を保管し、冬は卓上型のIH機器を使用し、温度管理を行った。</p> <p>② 毎日の衛生チェック表を用意し、必ず作業前に確認してチェックを行った。</p>
<p>◆ 車両管理</p> <p>① 運転業務が多いため、各職員の日々の体調・運行確認し安全運転を徹底する。</p> <p>② 乗車前の車両確認や車両清掃を行うことで安全運転への意識を高める。</p>	<p>① 勤務の様子から運転に支障があると判断した際は変更を随時行い、事故は1件のみであった。(私用車での事故が別に1件有り。)</p> <p>② 運行前チェック表を各車両に用意し、乗車前に車両点検を実施することで運転意識の向上に繋がった。</p>
<p>◆利用者の登所日数の安定化</p> <p>① 月の開所日数を22日以上に設定する。</p> <p>② 休みがちな利用者へ積極的に声掛けを行い、長期欠席にならないよう支援する。</p>	<p>① 4月、5月は新型コロナウイルスの影響もあり開所日の設定が困難であったが、以降は22以上の開所日を設定することが出来た。</p> <p>② 長期欠席者に対しては電話で近況の確認を行ったが、成果を出すことは難しかった。</p>

4 危機管理

◆具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
<p>◆ リスク管理の徹底</p> <p>① ひやりはっと報告の積極的な提出を促し、再発防止策の検討・実施を通じて支援の質を高める。</p> <p>② 事業所内の危険個所のチェックを行い、事故の防止を図る。</p>	<p>① 毎月職員会議時に報告事案の説明、提出への促しを実施し、必要に応じて日々の引継ぎ時に検討することができた。</p> <p>② 危険個所、事故が起こる可能性が高い場所については修繕を実施し、事故防止に繋がった。</p>

③ 防犯意識を高め、安全に過ごせる環境を作る。	③ 各職員の目視や防犯カメラを適宜確認し、不審者等の有無を確認することで安全な環境を作ることができた。
◆ 防災・防火訓練 火災報知機や AED の保守点検を行うほか、消火避難訓練等を通じて職員の防災意識や緊急時における対応力を高めていく。	10 月と 2 月に避難訓練を実施。自主訓練から職員個々の防災意識を高めることができた。
◆ 虐待防止体制 ① 研修会への参加を積極的に行う。 ② 事業所内で虐待防止研修を年に 1 回以上開催し、職員の意識の向上を図る。	① 新型コロナウイルスの影響もあり、研修会への参加は行えなかった。 ② 1 月に内部で虐待研修を行い、非常勤職員も含めて意識の向上に繋がった。

5 その他

◆具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
◆ 方針の周知徹底 ① 職員の引き継ぎや連絡ボードで情報共有し、職員間のコミュニケーションを推奨していく。 ② 月に一度の職員会議や連絡会議、各法人委員会等で方針の周知徹底を図る。	① 作業の際に細かい伝達ミスが見られたので、コミュニケーションを意識するよう周知し、作業班ごとで会議を開催し、情報の共有を図った。 ② 定期的な会議では方針の伝達などを意識的に行った。普段も職員個々にコミュニケーションを図るよう努めた。
◆ 地域活動への参加 ① 地域での販売、行事等へ積極的に参加する。 ② 地域活動を通じて、利用者の社会参加と地域の方たちとの触れ合いの機会を支援していく。	① コロナ禍であり、外部販売、行事は行えなかった。対面ではないが、みどりのまち親愛での販売は再開。特別支援学校の注文販売を開始した。 ② 青年学級の会議に出席。令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、活動が行えなかった。公園清掃や川越市の広報紙配布、社協資材の配布など継続して行うことができた。

■ ワークスしんあい（令和2年度事業報告 資料）

令和3年3月31日現在

1 利用者状況

(1) 障害支援区分(名)

支援区分	生活介護			就労継続		
	男	女	計	男	女	計
区分6	10	2	12	2	0	2
区分5	6	4	10	1	0	1
区分4	4	1	5	2	0	2
区分3	1	0	1	1	0	1
区分2	0	0	0	2	0	2
区分1	0	0	0	0	0	0
なし	0	0	0	9	1	10
合計	21	7	28	17	1	18

(2) 年齢構成(名)

区分 種別	性別	20歳未満	20歳以上～30歳未満	30歳以上～40歳未満	40歳以上～50歳未満	50歳以上～60歳未満	60歳以上	人数 合計	平均 (歳)
		就労継続 B型	男	0	7	3	3		
	女	0	0	1	0	1	0	2	45.0
	計	0	7	4	3	2	2	18	-
生活介護	男	0	3	7	6	2	4	22	43.7
	女	1	1	0	0	3	1	6	45.6
	計	1	4	7	6	5	5	28	-

2 事業所状況

(1) 各事業の実施状況

事業名	定員(名)	平均利用人数(名)	利用率(%)
就労継続支援B型	20	15.2	76
生活介護	20	21.3	106.5

(2) 実習生・研修生の受け入れ

区分	実習校等(か所)	人数(名)	延べ日数(日)
実習生	2ヶ所	3	13